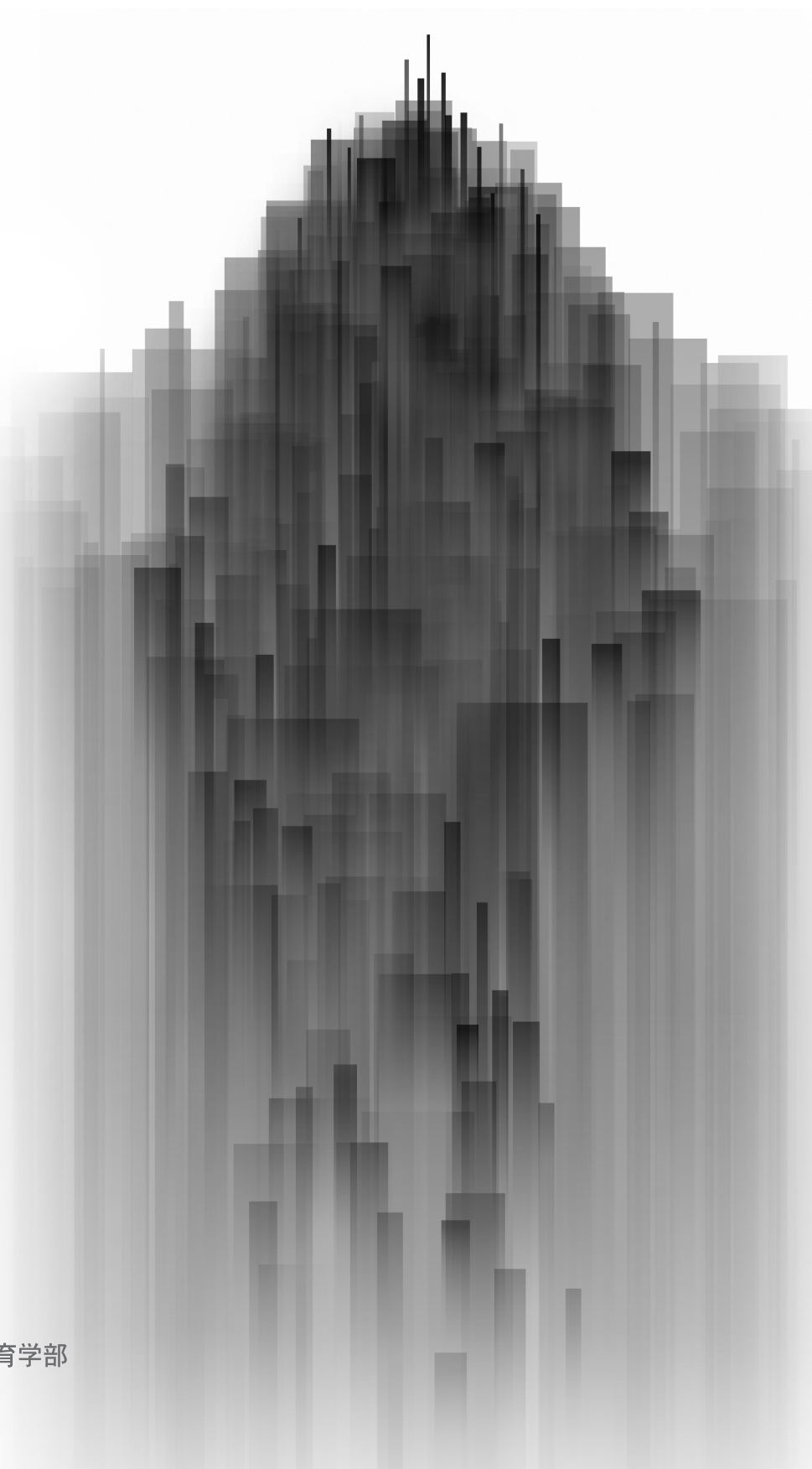


千葉大学教育学部研究紀要

Bulletin of The Faculty of Education, Chiba University Vol.68

ISSN1348-2084

第 68 卷



2020年3月
千葉大学教育学部

「千葉大学教育学部研究紀要」編集・発行要領

- 第1 この要領は、「千葉大学教育学部研究紀要」（以下「紀要」という。）の投稿及び編集・発行に関し必要な事項を定めたものである。
- 第2 紀要は、少なくとも各年度1回発行する。
- 第3 投稿資格者は、教育学部の教授、准教授、講師、助教、特任教員、非常勤講師（当該年度）、本学部附属学校副校園長、教諭、栄養教諭及び養護教諭、日本学術振興会特別研究員（当該年度）とする。ただし、非常勤講師（当該年度）、本学部附属学校副校園長、教諭、栄養教諭及び養護教諭、日本学術振興会特別研究員（当該年度）が投稿を希望する場合は、本学部の教授、准教授、講師、助教のいずれか1名の推薦を付することを条件とする。なお、共同研究者に関しては前記に限らないものとする。
- 第4 投稿する論文は、次のとおりとする。
 - 一 未公開のものに限る。
 - 二 投稿者1人につき1編、刷上り10頁以内とする。ただし、投稿者が経費を研究費等により負担する場合はこの限りではない。
- 第5 原稿の作成については、別に定める「千葉大学教育学部研究紀要」投稿細則による。
- 第6 校正、修正及び編集等は、次による。
 - 一 提出した原稿は、原則として変更を加えることが出来ない。
 - 二 活字、体裁等は、教育学部研究紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）が指定する。
 - 三 編集委員会が修正の必要を認めた場合は、投稿者と協議する。
 - 四 原稿の掲載順序は、分野ごとの原稿受付順とする。ただし、同一分野内に縦書き原稿と横書き原稿が混在する場合は、それぞれの受付順とする。縦書き原稿においては、原稿受付の遅いものから若い通し頁を付する。
 - 五 投稿者校正は2回とし、速やかに校正を行うものとする。遅延する時は編集委員会の責任において処理する。
 - 六 最終校正は、編集委員が行う。
- 第7 原則、別刷りについては50部までは本学部研究紀要経費で負担する。50部を越える場合は、投稿者が研究費等で負担することができる。
- 第8 紀要には、論文の他、編集委員会が必要とするものを掲載することができる。
- 第9 紀要に関する庶務は、総務係が担当する。
 - 2 「千葉大学教育学部研究紀要」投稿原稿様式マニュアル等、紀要の様式に関する詳細は、総務係に用意する。
- 第10 紀要に掲載された論文の著作権は著作者に属するが、各著作者は、本紀要の電子化・公開に必要な限度でその権利が編集委員会によって行使されることを承認するものとする。
- 第11 本編集・発行要領の改訂は、千葉大学教育学部、図書・紀要委員会の議を経る。

附 則

1. 本要領は、平成16年4月1日から実施する。
2. 第4条第2号に定める研究費等により負担できるものは、次の場合とする。
 - 一 頁を超過する場合。
 - 二 カラー印刷をする場合。
 - 三 2編以上投稿した場合。
3. 編集委員会の委員は、図書・紀要委員会の紀要担当委員をもって充てる。
4. 編集委員会の委員長は、図書・紀要委員長をもって充てる。

附 則

この要領は、令和元年11月7日から実施する。

「千葉大学教育学部研究紀要」編集・発行要領 第4条第2号に定める投稿者の経費負担について

1. 投稿者一人について刷り上がり10頁を超過する場合は、超過した1頁につき、4,000円を当人の研究費（校費）等から負担するものとする。
2. カラー印刷によって増加した費用（時価）を、当人の研究費（校費）等から負担するものとする。
3. 投稿者一人について2編以上を投稿する場合は、2編目から1編につき、20,000円を当人の研究費（校費）等から負担するものとする。
なお、この場合も上記1. は、それぞれの原稿について適用されるものとする。
4. 「千葉大学教育学部研究紀要」投稿細則 1-2による投稿申込書において、投稿者、執筆者を明記する。
5. この要領は平成24年12月1日から施行する。

目次

研究紀要 千葉大学教育学部

令和2年

第68巻

I. 教育科学系

●大学3・4年生の自己形成モデルの検討	榎木 靖夫	1
●幼児の反事実的思考に事象の可逆性が及ぼす影響	中道 圭人	9
●理科第2分野のコア知識の一覧表の更新とBig Ideas・Core Ideasによる補強	山下 修一	15
●青少年のインターネット利用に関する調査におけるオンライン調査の傾向 —平成30年度青少年インターネット利用環境実態調査の分析—	藤川 大祐	21
●教育心理学史序説 —第1報—	大芦 治	25
●スポーツにおける「競争」批判の論点 ～B. ラッセルの競争批判に基づく競技と道徳性の関係性の一断面～	杉山 英人	33
●学校生活での気持ちに着目した筋ジストロフィー児の支援方法について	稲垣日花里・石田 祥代	45
●実習指導を初めて行う養護教諭の不安と困難	三森 寧子・齋藤 千景・竹鼻ゆかり・鎌塚 優子 鹿野 裕美	53
●ベテラン教員と若年教員の指導に関する授業分析 —小学校におけるものづくりの授業を通じて—	鈴木 隆司・平見 凷	59
●非行少年の将来認知に関する文献研究	田中健太郎・羽間 京子	69
●適応上の課題を抱える生徒に対する『教育臨床的進路指導』(1)・磯邊 聡 —支援経験を持つ中学校教員を対象とした調査から—		77
●日英バイリンガル児の言語の特徴に対する在英日本人母親の意識	篠沢 薫・松寄 洋子・松井 智子	85
●千葉県の幼稚園・保育園・認定こども園における食育への職員の意識	辻 耕治・秋元岐代子	93
●造形、美術(図画工作・美術科)教育における資質・能力(教育課題・目標)を基盤にした授業デザインとカリキュラム編成 —「教育課題・目標」と「表現・鑑賞内容」の二視点からユニット(単元)を構成する編成方法の試案—	佐々木達行・鈴木 大啓・江藤 知香・小橋 暁子	99
●大学生における過去の複雑な感情が生じた場面 —回顧法による検討—	翁川 千里・岩田 美保	111
●小学5年算数「平均とその利用」単元における真正的授業の開始の試み	高木 啓・石浜 健吾・藤田 有紀・古林 智美 小山 義徳・安部 朋世・藤川 大祐	117
●高校歴史教員を目指す大学生のためのGIS基礎教育 —高等学校「地理総合」の授業構想能力の育成をめざして—	鳥光 一男	123
●学校教育の各現場で求められる特別支援教育の今日的な課題(その2)	細川かおり・横山 健司・石田 祥代・平田 正吾 真鍋 健・宮寺 千恵・北島 善夫	133
●児童・生徒の論理的文章作成能力向上のための基礎的調査 —児童・生徒作文の誤用実態と校正活動—	安部 朋世・橋本 修・西垣知佳子・永田 里美 田中 佑・時田 裕・青木 大和・松戸 伸行	143
●小学生が表現する電流モデルが電磁石単元の学習内容の理解に及ぼす影響	佐藤 誠・藤田 剛志	151
●英文作例参照用ソースコーパスの構築と用例検索ツールの開発	西垣知佳子・赤瀬川史朗	159
●児童・青年はどのように泣いている友達に反応するのか — 悲しみの泣きと嬉し泣きの比較 —	高橋 実里・中道 圭人	165
●HighScope カリキュラムの特徴と日本の幼児教育への示唆 —2019年アメリカ・HighScope等関連教育施設の視察を中心として—	砂上 史子・中道 圭人・入澤 里子・小林 直実	171

●海外の教員に対する短期滞在型教育研修プログラムの開発と 実施……………	大瀧 竜午・加藤 徹也・小山 義徳・梅田 克樹 澤邊 正人・大和 政秀・辻 耕治	185
—高等教育の輸出の検討—		
●学習者の自己評価の正確さに関する年齢要因の影響……………	物井 尚子	197
：英語授業における小学4年生と2年生の自己評価の可能性		
●千葉大学と台北教育大学との学生交流及び学術教育交流事業……………	本田 勝久・星加 真実・染谷 藤重	205
—台北市における海外教育実習—		
●新しいパラダイムにおける外国語教授法(1)……………	生田 裕二・佐藤 裕子・木村 一男・染谷 藤重 本田 勝久	213
—Richards & Rodgers (2014) を中心として—		
●新しいパラダイムにおける外国語教授法(2)……………	生田 裕二・佐藤 裕子・木村 一男・染谷 藤重 本田 勝久	221
—Richards & Rodgers (2014) を中心として—		
●通常学級における特別支援教育の実情と課題……………	笠井 孝久	229
●保健学習を行うにあたり小学校教員が感じる困難感……………	土屋 綾子・野村 純	235
●小学校の道徳科における肢体不自由児・者に関連する教材の 一考察……………	田中 亮・奥住 秀之・平田 正吾	241
—教科書を中心とした指導法の改善及び教育課程編成に向けて—		

Ⅱ. 人文・社会科学系

●ギリシア世界における権力者崇拜(2)……………	澤田 典子	247
—フィリポス2世からアレクサンドロスへ—		
●コモンスを実質化するための条件について……………	井上 孝夫	263
—河川敷ゴルフ場の開放を中心に—		
●英語と日本語における否定……………	平出 昌嗣	271
●英語での批判的読みにおけるメタ認知に関する実践研究……………	星加 真実	281
●国語・運動会・唱歌を通じた国民意識の形成……………	小関悠一郎・齋藤 寛・大野 翔平・白坂 遥 杉山 時生・助川 拓馬・鈴木 凜・村上 健輔 片桐 庸至・野田 貴志・多田 善光・鈴木 薫 山下 剛史・竹内 裕一	287
—国民意識の客観的把握をめざす中学校社会科の単元開発と 実践—		
●朝鮮学校と日本の中学校で使われている英語教科書における 言語活動の比較分析……………	李 貴 玉・星野 由子	295
●サブサハラ・アフリカにおける単収増を主とした穀物増産と その模倣の可能性……………	妹尾 裕彦	301
—南ア, マダガスカル, ザンビア, エチオピアの比較検討—		
●保護観察における新たなアセスメントツール ：期待される効果と課題……………	勝田 聡・羽間 京子	317
●英語教育における品詞指導の重要性再考……………	神谷 昇	323
●生活科における「土」を教材とした単元開発……………	新谷 祐貴・鈴木 隆司	333
—子どもの関心を軸とした活動を通して—		
●インドにおける酪農の発展と遺伝的改良への取り組み……………	梅田 克樹	343
●知的障害児のアクティブラーニングにおける深い学びを促す 教師の支援……………	関口 朋子・細川かおり	353
—生活単元学習におけるふりかえりの分析—		
●『土佐日記』を読み直す……………	鈴木 宏子	424
●複層化した近代文学の「規範」……………	佐藤 宗子	418
—講談社「少年少女日本文学館」の企て—		

Ⅲ. 自然科学系

●第一言語と第二言語における“語彙-概念リンク”の発達……………	江ヶ崎 萌・杉田 克生・大井 恭子・飯塚 正明	359
その9		
●大雪山と利尻島の高山帯に産するエゾナガゴミムシ種群 (甲虫目：オサムシ科)の種分類……………	笹川 幸治・奥崎 穰	365
●有機LED作製教材の検討……………	飯塚 正明・古怒田有里	369
●Arduino UNO を用いた磁気浮遊装置の作成と分析……………	森重 比奈・加藤 徹也	375
—磁界センサによる位置制御と浮遊時の磁界分布—		

- 窪田浅五郎の考案した路程車の復元と機能および精度の検証……吉野 葵・桂本 柚奈・板倉 嘉哉 385
(第一報：伊能忠敬と窪田浅五郎の接点)

IV. 芸術系

- 小学校音楽教育における読譜力育成カリキュラムの開発に向けて……竹内由紀子 393
- 平安時代後期・鎌倉時代の多臂金銅仏の構造と鑄造法……宮崎 甲・三枝 一将・松本 隆 401

I . Pedagogy

● Examination of self-formation model for university third and fourth graders	TARUKI Yasuo	1
● The influence of the reversibility of object on young children's counterfactual thinking	NAKAMICHI Keito	9
● Renewal and Reinforcement of Biology and Geology Core Knowledge Using Big Ideas and Core Ideas	YAMASHITA Shuichi	15
● Impact of Survey Methods on Surveying the Internet Use by Youth	FUJIKAWA Daisuke	21
● The Introduction of the History of Educational Psychology (1)	OASHI Osamu	25
● Critical Points of Competitive Aspect of Sport Case study of relationship between athletics and morality based on B. Russell's criticism of competition	SUGIYAMA Hideto	33
● Support method of students with muscular dystrophy focused on feelings in school life	INAGAKI Hikari ISHIDA Sachiyo	45
● Anxiety and Difficulty of <i>Yogo</i> Teacher Supervising Practical Training for the First Time	MITSUMORI Yasuko SAITO Chikage TAKEHANA Yukari KAMAZUKA Yuko SHIKANO Hiromi	53
● Class Analysis on Teaching of Skilled and Young teachers -Through Manual Training Classes in Elementary School-	SUZUKI Takashi HIRAMI Nagi	59
● Literature review of studies on perceptions about the future among young people with justice system involvement	TANAKA Kentaro HAZAMA Kyoko	69
● Career guidance from a view point of the guidance counseling for the junior high school students who have adaptation problems	ISOBE Satoshi	77
● Japanese mothers' perceptions of the linguistic features of Japanese-English speaking children living in the UK	SHINOZAWA Kaoru MATSUZAKI Yoko MATSUI Tomoko	85
● Situation of "Shokuiku (Food and nutrition education)" for preschool children in Chiba prefecture based on survey to the preschool staff.	TSUJI Koji AKIMOTO Kiyoko	93
● Design for Class & Curriculum Arrangement Based on the Qualities and abilities in the Art Education -Design for Unit of Curriculum Arrangement Plan-	SASAKI Tatsuyuki SUZUKI Taikei ETOU Tomoko KOBASHI Satoko	99
● Scenes in which university students experienced mixed emotions. -Using retrospective data-	OIKAWA Chisato IWATA Miho	111
● Developing Authentic Lessons on Elementary Mathematics "Average and its Utilization" in the Fifth Grade	TAKAKI Akira ISHIHAMA Kengo FUJITA Yuki FURUBAYASHI Tomomi OYAMA Yoshinori ABE Tomoyo FUJIKAWA Daisuke	117
● GIS basic education for Students aiming to become history teachers Foster student's ability to plan high school geography classes	TORIMITSU Kazuo	123

● Current topics on special need education in regular school, school for special needs education, and university for teacher training course -part 2: the practice of School of Special Needs Education Attached to Faculty of Education, Chiba University	HOSOKAWA Kaori YOKOYAMA Kenji ISHIDA Sachiyo HIRATA Shogo MIYADERA Chie MANABE Ken KITAJIMA Yoshio	133
● Toward the Enhancement of Students' L1 Writing: An Analysis of Student Production Errors and Proofreading Ability Errors and Mistakes Found in Students' Essays and their Proofreading Activities	ABE Tomoyo HASHIMOTO Osamu NISHIGAKI Chikako NAGATA Satomi TANAKA Yu TOKITA Yutaka AOKI Yamato MATSUDO Nobuyuki	143
● Relationship between electric current models expressed by elementary school students and understanding of the learning content of an electromagnet unit	SATO Makoto FUJITA Takeshi	151
● Development of a Sentence Search Tool with Reference Source Corpus Used for Creation of Sample English Sentences	NISHIGAKI Chikako AKASEGAWA Shiro	159
● How do people respond to crying peers in childhood and adolescence? : Comparison between crying of sadness and crying of happiness.	TAKAHASHI Minori NAKAMICHI Keito	165
● The features of HighScope curriculum and the suggestions for Japanese ECEC	SUNAGAMI Fumiko NAKAMICHI Keito IRISAWA Satoko KOBAYASHI Naomi	171
● Developing and implementing a short-term training program in Japan for inservice teachers from overseas	OSHIMA Ryugo KATO Tetsuya OYAMA Yoshinori UMEDA Katsuki SAWABE Masato YAMATO Masahide TSUJI Koji	185
● A Comparison of Perceived Competence in L2 for Fourth Graders and Second Graders in English	MONOI Naoko	197
● Overseas Teaching Practicums in Pre-Service Training Programs in Taipei City: The Student Exchange Program between Chiba University and National Taipei University of Education	HONDA Katsuhisa HOSHIKA Mami SOMEYA Fujishige	205
● New Paradigms in Foreign Language Teaching Part 1: Focused on Current Approaches and Methods by Richards and Rodgers (2014)	IKUTA Yuji SATO Yuko KIMURA Kazuo SOMEYA Fujishige HONDA Katsuhisa	213
● New Paradigms in Foreign Language Teaching Part 2: Focused on Current Approaches and Methods by Richards and Rodgers (2014)	IKUTA Yuji SATO Yuko KIMURA Kazuo SOMEYA Fujishige HONDA Katsuhisa	221
● The Difficulties of Special Needs Education in An Ordinary Classroom	KASAI Takahisa	229
● Difficulties experienced by Elementary school teachers when they conducted health education classes	TSUCHIYA Ayako NOMURA Jun	235
● About the physical disabilities in the methods of education of the "morality" - For the improvement of the instruction method mainly on the textbook and curriculum formation -.	TANAKA Ryo OKUZUMI Hideyuki HIRATA Shogo	241

II. Humanities and Social Sciences

● The Ruler Cult in Ancient Greece (2): From Philip II to Alexander	SAWADA Noriko	247
● About a Condition to Make Commons Substance – Mainly on the Opening of the Riverbed Golf Course –	INOUE Takao	263
● Negation in English and Japanese	HIRAIDE Shoji	271
● Metacognitive Development through English Critical Reading: A Practical Study	HOSHIKA Mami	281
● Constitution of National Consciousness Through National Language, Athletic Meet and Songs	KOSEKI Yuichiro	287
Unit Development and Practice of Junior High School Social Studies for Aiming Objective Prehension of National Consciousness	SAITO Kan OHNO Shohei SHIRASAKA Haruka SUGIYAMA Tokio SUKEGAWA Takuma SUZUKI Rin MURAKAMI Kensuke KATAGIRI Nobuyuki NODA Takashi TADA Yoshimitu SUZUKI Kaoru YAMASHITA Takefumi TAKEUCHI Hirokazu	
● Comparative Study of English Textbooks Used in Korean and Japanese Schools	RI Kwiok HOSHINO Yuko	295
● Increase of cereal production in Sub-Saharan Africa mainly by improving crop yields: Can South Africa, Madagascar, Zambia and Ethiopia be the models for the rest of the Sub-Saharan African countries?	SEO Yasuhiko	301
● Development of assessment tools for individuals on probation or parole in Japan: Expected impact and future research	KATSUTA Satoshi HAZAMA Kyoko	317
● Parts of Speech Revisited: From a Pedagogical Point of View	KAMIYA Noboru	323
● Development for the Unit on “soil” in Living Environment Studies – Through activities centered on children's interests –	ARAYA Yuki SUZUKI Takashi	333
● Development and Genetic Improvement of Dairy Farming in India	UMEDA Katsuki	343
● A Study teaching method on thinking in active learning for children with intellectual disabilities	SEKIGUCHI Tomoko HOSOKAWA Kaori	353
● Rereading Tosa-nikki	SUZUKI Hiroko	424
● The Ambiguous Canon of Modern Japanese Literature: The Case of Kodan-sha's 'Library for Boys and Girls'	SATO Motoko	418

III. Natural Sciences

● Development of “Lexicon-Concept Link” in the First Language and Second Language – Part 9 –	EGASAKI Moe SUGITA Katsuo OI Kyoko IIZUKA Masaaki	359
● On the species identities of the <i>Pterostichus thunbergi</i> species group (Coleoptera:Carabidae) from the alpine zones of Rishiri-tô Island and the Daisetsuzan Mountains, Hokkaidô, northern Japan	SASAKAWA Kôji OKUZAKI Yutaka	365
● Development of Teaching Materials to Fabrication of Organic LED	IIZUKA Masaaki KONUTA Yuri	369
● Construction and analysis of magnetic floating device using Arduino UNO – Position control using a magnetic-field sensor and field distribution during floating –	MORISHIGE Hina KATO Tetsuya	375
● Reconstruction of the ROTEL-sya Designed by KUBOTA Asagoro (1st report: Historical Study of Connection Between INO Tadataka and KUBOTA Asagoro)	YOSHINO Aoi KATSURAMOTO Yuzuna ITAKURA Yoshiya	385

IV. Fine Arts

- Toward Curriculum Development of Score Reading Ability Development on Music
Education in Elementary School TAKEUCHI Yukiko 393

- Casting Methods of Gilt Bronze Buddhist Statues which have Many Upper Arms
in the Late Heian and Kamakura Period MIYAZAKI Ko 401
SAEGUSA Kazumasa
MATSUMOTO Takashi

2019年度外部資金一覧（教育）

教室名	代表者氏名	研究種目	委託者	研究課題名
教 育 学 心 理 学	岩田 美保	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	幼児・児童の感情言及と関係調整プロセス：他者理解への道筋を探る
	片岡 洋子	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	現代中等教育におけるフレネ教育の研究
教 育 学	貞廣 斎子	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	教育財政における公私分担・配分構造の再構築と財政原則に関する研究
		受 託 事 業	文部科学省 初等中等教育局	少子化・人口減少社会に対応した活力ある学校教育推進事業
	羽間 京子	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	保護観察における新たなアセスメントツールの有用性の検証
	藤川 大祐	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	形態素解析を用いた小学生向け語彙学習教材生成システムの開発と評価
	市川 秀之	若 手 研 究	独立行政法人 日本学術振興会	動員としての教育—クリティカル・ペダゴジーの新展開—
	高木 啓	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	教員養成における授業実践コンピテンシーと教育学コンテンツの結合
	国 語 科	安部 朋世	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会
佐藤 宗子		基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	戦後児童文学にみる「文学」の体系化と規範化——少年少女向け叢書を中心に
森田 真吾		基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	「多様な言語材」を学習者自身が作ることを大切に国語科授業開発に関する研究
書 写 書 道	樋口 咲子	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	水書用筆を活用した ICT 教材及び授業開発と水書用筆を組み入れた書写指導の理論構築
社 会 科	澤田 典子	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	古典期のマケドニア王国の権力者崇拜に関する研究：フィリポス 2 世の治世を中心に
	竹内 裕一	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	地方圏における「地域再生」を担う人材育成を目指した地域学習のあり方に関する研究
	戸田 善治	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	プロフェッション倫理と市民倫理の相剋を活用した倫理教育のグローバル教材開発研究
		奨学寄附金	千葉県税理士会	千葉県税理士会寄附講座
	梅田 克樹	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	高校地理カリキュラムにおける環境教育の国際比較研究
	金 慧	若 手 研 究	独立行政法人 日本学術振興会	カントにおける非理想理論としての国際法論——暫定的領有権の構想
	小関悠一郎	若手研究 (B)	独立行政法人 日本学術振興会	大名家臣団における藩政運営能力の形成・蓄積に関する基礎的研究—久留里藩を事例に—
	妹尾 裕彦	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	穀物とイモからみるアフリカ諸国の食料生産・消費をめぐる構造変動
数 学 科	澤邊 正人	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	有限群のベキ零部分群複体と付随するクイバーの表現
	松尾 七重	基盤研究 (B)	独立行政法人 日本学術振興会	就学前教育機関の教員等及び保護者を対象とした算数教育研修プログラムの開発
	白川 健	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	構造相転移を伴う非線形自由境界問題における形態変化する安定構造の研究
	辻山 洋介	若手研究 (B)	独立行政法人 日本学術振興会	証明の構想における議論の蓋然性に着目した問題解決・問題設定の促進

教室名	代表者氏名	研究種目	委託者	研究課題名
理 科	加藤 徹也	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	シミュレーションによって支援された発見と検証の討論型物理実験教材の開発
		受託事業	国立研究開発法人 科学技術振興機構	日本・アジア青少年サイエンス交流事業(さくらサイエンスプラン)科学技術体験コース
	山田 哲弘	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	基材への吸着と二次元分子配列を強相関させた新規界面活性剤型防錆剤の創出
	大和 政秀	挑 戦 的 研究(萌芽)	独立行政法人 日本学術振興会	アーバスキュラー菌根菌胞子果の同定分類と有性生殖の探索
		共 同 研 究	九州電力株式会社	オオパノトンボソウ保全に関する研究
	笹川 幸治	若手研究(B)	独立行政法人 日本学術振興会	幾何学的形態測定法による昆虫口器の多様化機構の解明:オサムシ科幼虫をモデル系に
	大 寫 竜 午	若 手 研 究	独立行政法人 日本学術振興会	実験方法の妥当性と信頼性に関する生徒の評価・判断能力の解明とその向上
	泉 賢 太 郎	助 成 金	公益財団法人 国際科学技術財団	温暖化に伴う海洋貧酸素化の長期変動と、底生生物への影響:ジュラ紀前期の地層記録からの知見
		助 成 金	一般財団法人 日本文具財団	伝統工芸品「赤間硯」の硯石(赤間石)に関する岩石学的研究
助 成 金		公益財団法人 深田地質研究所	ジュラ紀前期の海洋貧酸素化に対する底生生物の長期的応答パターン	
英 語 科	西垣知佳子	基盤研究(B)	独立行政法人 日本学術振興会	小中高生の英文法能力獲得に資するデータ駆動型学習の活用と普及に関する研究
	星野 由子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	小中連携を図るための中学入門期における診断用英語語彙テストの開発
	物井 尚子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	児童のL2 WTCを促進する英語教育プログラムの開発・検証とその普及
	石井 雄隆	若手研究(B)	独立行政法人 日本学術振興会	ライティングプロセス可視化コーパスの構築と英語学習者のライティングプロセスの解明
美 術 科	後藤 雅宣	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	重色とブレンディング・モードによる美術教育法に関する比較研究および実証
	宮崎 甲	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	鎌倉期における金銅仏鑄造法の実証研究—那古寺金銅千手観音菩薩像から探る—
	小橋 暁子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	資質・能力の育成と幼小の接続に焦点をあてた造形教育カリキュラム開発
	佐藤 真帆	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	伝統的なものづくりと新しい文化的アイデンティティに関する研究
	神野 真吾	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	美術館における社会的課題を踏まえた子ども対象のアート・プロジェクトのモデル化
保 体 育 科	小宮山伴与志	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	持続時間の異なる激運動とそのトレーニングに対する中枢直流電気刺激の効果
	下永田修二	受託事業	千葉市	千葉大学バラスポーツ交流会
	七澤 朱音	挑 戦 的 萌 芽 研 究	独立行政法人 日本学術振興会	反省的实践家を育成する新しい教員研修~授業中の省察を可能にする方法論の提案~
技 術 科	飯塚 正明	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	技術科領域におけるグローバル PDL を用いた実証的 STEM 教育プログラムの開発
	辻 耕 治	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	東南および南アジアと連携したSDGsへの農業・環境教育からの有効なアプローチ方法
補 助 金		独立行政法人 日本学術振興会	ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ~KAKENHI「遺伝子も資源である」ことを身近な作物の多様性から学ぼう	

2019年度外部資金一覧（教育）

教室名	代表者氏名	研究種目	委託者	研究課題名
特別支援教育	石田 祥代	基盤研究 (B)	独立行政法人 日本学術振興会	後期中等教育におけるインクルーシブ教育の展望とその方略の提言
	平田 正吾	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	自閉症スペクトラム障害児における「運動-社会性連関」の成立メカニズムの解明
	真鍋 健	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	幼児期の経験を無駄にしない：「深い学び」の継続支援システムの開発
	宮寺 千恵	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	不注意ならびに多動性傾向の高さが学業成績や自尊感情に及ぼす影響に関する検討
幼児教育	砂上 史子	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	施設入所児・要支援家庭児に対する保育者の専門性向上のための研修プログラムの開発
		共同研究	千葉市	保育環境、家庭環境が1・2歳児の社会・情動的能力に及ぼす影響の検討
	松壽 洋子	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	幼児初期の移動的・平衡的運動の形成過程における保育環境と指導方法の解明
		受託事業	文部科学省 初等中等教育局	幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業
	駒 久美子	助成金	公益財団法人 前川財団	日米両国の就学前施設等における子育て支援に関する研究—絵本による音楽づくりに焦点をあてて—
	中道 圭人	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	幼児期のメンタル・タイムトラベルの発達：反事実的思考と未来思考
助成金		公益財団法人 前川財団	幼児期の自己制御が学齢期の学業的・社会的適応に及ぼす影響	
養護教諭	高橋 浩之	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	教員養成分野におけるジェネリック・スキル育成のための教育的介入の検討
	野村 純	補助金	独立行政法人 日本学術振興会	ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI 傷を治す体の仕組みを免疫細胞から考えてみよう
		補助金	文部科学省	令和元年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業） 大学教育再生加速プログラム テーマⅢ（高大接続）「次世代スキップアップ」プログラム
	三森 寧子	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	幼児教育におけるソーシャルキャピタルを核とした健康発達資産の醸成に関する研究
教員養成開発センター	土田 雄一	受託研究	公益財団法人千葉県 産業振興センター	2019年度中核人材育成事業（京葉臨海コンビナート人材育成講座）
	保坂 亨	受託事業	独立行政法人 教職員支援機構	教員の資質向上のための研修プログラム開発・実施支援事業 指標に基づいた現職教員研修の高度化・体系化プログラム開発・実施事業
		受託事業	文部科学省 総合教育政策局	現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業
	磯邊 聡	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	適応上の問題を抱える生徒に対する援助的な視点に基づいた『教育臨床的進路指導』
	笠井 孝久	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	教員を志望する高校生へのキャリア支援：学部教員養成以前の教職カリキュラムを考える
教育学部 附属 幼稚園	山田 哲弘	受託事業	国立教育政策研究所	教育課程研究指定校事業
		奨学寄附金	公益財団法人 ソニー教育財団	2019年度ソニー幼児教育支援プログラム
教育学部 附属 小学校	小池 翔太	受託事業	文部科学省 初等中等教育局	次世代の教育情報化推進事業（情報活用能力の育成等に関する実践的調査研究）
教育学部 附属 中学校	石田 剛志	助成金	公益財団法人 武田科学振興財団	中学校理科第2分野地学領域を体系的に学習するための授業プログラム開発

「千葉大学教育学部研究紀要」投稿細則

1 「論文」原稿の申し込み及び投稿

千葉大学教育学部研究紀要（以下「紀要」という。）の投稿期限及び提出先は、次のとおりとする。

- 1-1 投稿希望者は、教育学部研究紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）が定めた期日までに、投稿原稿様式マニュアルに従い作成した原稿を、投稿申込書、投稿者チェックシート等とともに提出する。
- 1-2 提出先は、編集委員会委員長（事務担当：総務係）とする。
- 1-3 論文の著作権は著作者に属するが、各著作者は、本紀要の電子化・公開に必要な限度でその権利が編集委員会によって行使されることを承認するものとする。
- 1-4 投稿原稿について、編集委員会が修正を求める場合がある。

2 「論文」原稿作成について

2-1 原稿は原則として日本語あるいは英語によって作成する。日本語と英語以外の言語による原稿の作成がどうしても必要な場合は、和文原稿あるいは英文原稿のいずれかに準じた書式とする。

原稿の種類に関わらず、マージンは、上下左右ともに2.5cm程度とする。ただし、原稿用紙を使用する場合は、原稿用紙のマージンをもって上記のマージンを満たしているものとする。

原稿は全て、なみ字体（英語ではローマン体）とし、太字体（ボールド体）や斜字体（イタリック体）等が必要な箇所は、ハードコピーの原稿に校正記号で指示することが望ましい。なお、手書き原稿においては、これに準じた対応をする。

和文論文の場合、アルファベットを使用している部分を除き、句読点は、横書きは「、」と「。」、縦書きは「、」と「。」を使用する。

2-2 原則として横書きで作成すること。ただし、特に必要であるときは縦書きで作成することを認める。

2-2-1 横書き原稿の場合

和文：縦置きA4用紙に、1行40字、1頁40行の1段組で原稿を作成する。

英文等：縦置きA4用紙に、1行40字、1頁40行の1段組で原稿を作成する。

和文、英文原稿に関わらず、表紙（表題、著者名、所属、キーワード、要旨及び表題・著者名・所属に関する脚注）は、本文と同じく1段組みで作成する。

2-2-2 縦書き原稿の場合

和文：横置きA4用紙に、1行40字、1頁40行の1段組で原稿を作成する。

表紙（表題、著者名、所属、キーワード、要旨及び表題・著者名・所属に関する脚注）は、本文と同じく1段組みで作成する。

和文要旨及び英文要旨はそれぞれ、表紙及び本文とは別紙として用意する必要はない。

2-3 引用文献の引用方式及び表記方式は特に定めないが、同一論文中には、同一の引用及び表記方式を用いる。

2-4 図及び表の作成方法

2-4-1 図・表は、1枚ずつ別紙に用意し、それぞれの図・表の裏面に、著者名、筆頭著者の所属名と各図・表番号を明記する。また、本文中には図・表の挿入箇所を明示する。ただし、本文中に図・表を挿入した場合は、著者名等の情報を明記する必要はない。

図・表は希望する縮尺サイズを明示する。なお、編集の都合上、図表の縮尺サイズの最終決定権は編集委員会に帰属するものとする。編集上の都合で、著者が希望した以外の縮尺サイズで、図表が掲載された場合、本件に関して異論のある著者は、初稿で示された段階において、編集委員会に対して申し出を行い、同委員会と協議して最終縮尺サイズを決定するものとする。

2-5 著者が、作成原稿で使用した言語を母語としない場合、著者の責任においてネイティブスピーカーによる原稿の言語チェックを行うことが望ましい。

2-6 著作権に関わる図・表等を引用する場合は、投稿者の責任において著作権保持者から同意を得る。

2-7 その他、原稿の体裁に関わる詳細は、別に定める「千葉大学教育学部研究紀要」投稿原稿様式マニュアル（以下「マニュアル」という。）に従う。

3 この細則及びマニュアルの改定は、教育学部図書・紀要委員会の議を経るものとする。

附 則

この細則は、令和元年11月7日から実施する。

「千葉大学教育学部研究紀要」投稿原稿様式マニュアル

論文題名：和文論文・英文論文にかかわらず，和文タイトルと英文タイトルを必ず用意する。

著者氏名：和文論文・英文論文にかかわらず，日本語と英語を必ず用意する。

英語での表記は略さず，Family Name, Middle Name (お持ちの方のみ), Given Nameの順に記述すること。

著者所属：和文論文・英文論文にかかわらず，日本語と英語を必ず用意する。

教育学部の専任教員及び本学部附属学校教諭であっても，所属を明記する。学生も本人の所属機関，学部名を記述する。なお，学生は，所属末尾に博士課程，修士課程，学部生，専攻生，研究生の別を明記する（社会人の学生は，各自の職場名あるいは学生としての身分のいずれを記述してもよい）。

在学中の研究に関わる論文にあっては，卒業（修了）後であってもその研究を行った時の所属のみを記述してもよい。

所属は必ず主となる所属名を記述（どうしても必要であれば，括弧書きで，その他の所属名を添えてもよい）する。記述にあたっては，学部名あるいはこれに相当するランクの詳細まで記述する。なお，学部は，Departmentではなく，Facultyとして表記する。

連絡著者（Corresponding Author）の明示：著者が二名以上の場合には，必ず連絡著者名を明示すること。連絡先の明示は義務づけがないが，できる限り，メールアドレス等を記述する。

要 旨：和文論文は必ず和文要旨を，英文論文は必ず英文要旨と和文要旨を準備する。両要旨ともに段落は設けないこと。

なお，和文論文に関しても，可能な限り，英文要旨を用意する。

英文原稿の和文要旨及び和文原稿の英文要旨は下記のような形式で提出する。

和文要旨は，本文400字以内（句読点は字数に含め，スペース部分は字数に含めない），英文要旨は，本文300 words以内（カンマ，ピリオド等は字数に含め，スペース部分は字数に含めない）とする。いずれの場合も，字数，用語数は厳守する。

キーワード：和文論文，英文論文ともに，5語以内のキーワードを，必ず日本語及び英語で準備すること。記述順序は，重要なワード順とする。

欄外見出し：和文原稿では和文40字以内，英文原稿では英文50字以内の欄外見出しを決定し，投稿者の責任において原稿投稿時に提出する。

和文論文作成マニュアル

和文論文は，次の記入例に従い，1頁目に表紙，2頁目に本文，最終頁に英文要旨等の順に作成すること。

注：英文要旨を作成しない場合も，英文の論文タイトル・氏名・所属・キーワードを明示する。

記入例 [和文の場合]

[1頁目] 表紙

日本語でのタイトル

千葉太郎¹⁾・教育 好²⁾・紀要進造¹⁾・教育修子³⁾

1) 千葉大学・教育学部

2) 世界教育研究所・環境科学部門

3) 千葉大学大学院・教育学研究科・修士課程

参考：博士課程学生は東京学芸大学連合大学院教育学研究科・博士課程という様式で記述する。
学部生の場合は千葉大学教育学部・学部生という様式で記述する。
専攻生の場合は千葉大学教育学部・専攻生という様式で記述する。
研究生の場合は千葉大学教育学部・研究生という様式で記述する。

要旨

キーワード：宇宙・教育・日本・学部・大学

*連絡先著者：E-メールのアドレス等を記述

[2 頁目] 本文（和文）

序

1 目的

2 方法

3 結果

4 考察

謝辞

引用文献

注 本文の章立てについては、必ずしも通し番号をつける必要はない。

[最終頁] 英文要旨等

英語でのタイトル

CHIBA Taro ¹⁾, KYOIKU Ko ²⁾, KIYO R. Shinzo ¹⁾ and KYOUIKU Shuko ³⁾

1) Faculty of Education, Chiba University, Japan

2) Division of Environmental Science, The Institute of World Education, USA

3) Graduate School of Education, Chiba University, Japan; Graduate Student

Abstract 本文（可能な限り用意する。）

Key Words: Universe, Education, Japan, Faculty, University

* Corresponding author：E-メールアドレス等を記述

注1：上記例示の氏名中の「R.」はミドルネーム。

注2：英文での氏名の表記は、姓を最初に示し、名を後に表記する。また、姓はすべて大文字で表記する。

英文論文作成マニュアル

英文論文は、次の記入例に従い、1 頁目に表紙、2 頁目に本文、最終頁に和文要旨等の順に作成すること。

記入例 [英文の場合]

[1 頁目] 表紙

英語でのタイトル

CHIBA Taro ¹⁾, KYOIKU Ko ²⁾, KIYO R. Shinzo ¹⁾ and KYOUIKU Shuko ³⁾

1) Faculty of Education, Chiba University, Japan

2) Division of Environmental Science, The Institute of World Education, USA

3) Graduate School of Education, Chiba University, Japan; Graduate Student

Abstract 本文

Key Words: Universe, Education, Japan, Faculty, University

* Corresponding author : E-メールアドレス等を記述

[2頁目] 本文 (英文)

Introduction

1 Propose

2 Method

3 Result

4 Implication

Acknowledgements

References

注 本文の章立てについては、必ずしも通し番号をつける必要はない。

[最終頁] 和文要旨等

日本語でのタイトル

千葉太郎¹⁾・教育 好²⁾*・紀要進造¹⁾・教育修子³⁾

1) 千葉大学・教育学部

2) 世界教育研究所・環境科学部門

3) 千葉大学大学院・教育学研究科・修士課程

要旨

キーワード：宇宙・教育・日本・学部・大学

*連絡先著者：E-メールアドレス等を記述

注1：上記例示の氏名中の「R.」はミドルネーム。

注2：英文での氏名の表記は、姓を最初に示し、名を後に表記する。また、姓はすべて大文字で表記する。

CD-R・USBメモリ等の提出に関する依頼事項

原稿は、ハードコピー（1部）とCD-R・USBメモリ等（以下「CD-R等」という。）の両方の方式で提出する。

イタリック体等の字体に関してはハードコピーに、赤字で字体等の指示を明記することが望ましいが、必ずしも行う必要はない。通常汎用されているパソコンソフトであれば、いずれのソフトを使用して原稿を作成してもよい。ただし、ワープロ専用機を使用する場合は、原稿作成者の責任においてパソコン対応ソフトに変換することを条件とする。

図・表に関しても可能な限り、版下となりうるデータをCD-R等に保存し、提出することが望ましい。

ハードコピーで提出する図・表の裏には、1枚ずつ図・表の番号、所属・氏名等を記入する。

提出CD-Rには、使用OS名、ソフト名を明記する。（USBメモリ等の場合は、同様の内容についてメモを添付すること。）

千葉大学教育学部研究紀要 第68巻

2020（令和2）年3月1日発行

編集兼 〒263-8522
発行人 千葉市稲毛区弥生町1番33号
千葉大学教育学部

印刷所 〒260-0824
千葉市中央区浜野町1397
三陽メディア株式会社
TEL 043-266-8437
